

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	整備課
課長名	木原
施策番号	
II - 1 - (4) - ④	
<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
(人件費備考)	

事業概要						
事業名	海岸(高潮)事業					事業手法
	災害に強い都市づくりの一環として、高潮等の災害から市民の生命や財産を守るために、臨海部において護岸整備を行います。					
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
		65,500 千円	千円	25年度補正予算額 25,500千円		課長 0.10 人 係長 0.10 人 職員 0.40 人

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	新門司北地区東護岸の成果及び活動の状況については、全体計画1,790mのうち、1,360mが完成し、事業が予定通り進んでいるため、順調としています。平成25年度完了を目標として、引き続き護岸の整備を進めます。	見直し内容	新門司北地区東護岸の整備は平成25年度に完了予定です。また、平成25年度からは、新たに新門司北地区北側及び白野江地区において、災害に強い都市づくりに向けた臨海部の護岸整備に着手します。
----	-------------------	--	-------	--

【Plan】計画

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	【Do】実施 → 【Check】評価		
	市民生活や企業活動	台風や高潮等の災害時に人々が安全で安心な生活を送れる状態を目指します。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	新門司北地区北護岸整備による後背地防護面積		単年度目標設定なし			
	新門司北地区において、北側臨海部の護岸全体を完成させることにより、高潮等の災害から防護する後背地の面積を指標とします。 (最終目標と目標年度) 防護面積:51ha 目標年度:平成29年度				%	
	白野江地区護岸整備による後背地防護面積		単年度目標設定なし			
	白野江地区において、臨海部の護岸全体を完成させることにより、高潮等の災害から防護する後背地の面積を指標とします。 (最終目標と目標年度) 防護面積:14ha 目標年度:平成28年度				%	

活動計画

活動計画	どうやって目的を達成するか	災害対策の重要性の高まりを受け、過去に災害を受けた地区において、臨海部の護岸整備を早急に実施する必要があると考えています。新門司地区北護岸については、平成25年度から5ヶ年の計画、白野江地区護岸については、平成25年度から4ヶ年の計画で、護岸の整備を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	新門司北護岸 整備延長		147 m		
	新門司地区北護岸の整備延長を指標として設定。			%	
	白野江護岸 整備延長		32 m		
	白野江地区護岸の整備延長を指標として設定。			%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	計画課
課長名	牛島
施策番号	
II - 1 - (4) - ⑤	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	

事業概要					
事業名	国直轄事業負担金(耐震岸壁整備)				
事業概要	大規模震災時にも物資等の海上輸送機能を確保するため、耐震強化護岸を整備します。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額
		54,000 千円	千円		2,900 千円
				課長 0.10 人	係長 0.10 人
				職員 0.10 人	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	耐震岸壁の整備については、事業が予定通り進んでいるため、活動の状況は「順調」としています。	見直し内容 全体計画5箇所のうち、2箇所目の岸壁整備は、26年度に完了予定です。引き続き、3箇所目の岸壁整備についても、検討を進めていきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州港の臨海部防災拠点	地震などによる大規模災害時に、市及び周辺地域の経済や生活を支える物資等の海上輸送機能が確保されている状態を目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	臨海部防災拠点を構成する耐震化岸壁の整備		単年度目標設定なし		
	「大規模災害時における物資等の海上輸送機能が確保されている状態」を表す代替の指標として、臨海部防災拠点を構成する岸壁の耐震化の進捗状況で検討を行います。平成30年度前半までに岸壁5バースの耐震化を目指します。 (最終目標と目標年度) 岸壁5バースの耐震化(H30年代前半)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画				活動の状況	
どうやって目的を達成するか	臨海部防災拠点を形成する耐震強化岸壁の適切な配置・整備について、23年度の港湾計画の改訂に位置づけ(既設を含む5箇所を予定)が完了しており、今後は位置づけた耐震強化岸壁の整備を、国等と協力して進めていきます。			活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	臨海部防災拠点を構成する耐震化岸壁の整備率				
	北九州港で2つ目の耐震強化岸壁整備の事業の進捗率を指標として設定します。	96 %	100 %	%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要						担当局	港湾空港局
						担当課	総務企画課
事業概要						課長名	深村
						事業名	
新・海辺のマスタープラン推進事業						事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
H23年5月に策定した「新・海辺のマスタープラン」における2つの目標(「目標1:利用できる海辺を増やす」「目標2:親しまれる度合いを高める」)を実現するための様々な取り組みについて、その検証及びプランの進捗管理等を行います。							(人件費備考)
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.13 人 係長 0.25 人 職員 0.50 人
		1,751 千円	千円			7,745 千円	

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成24年度調査では、海辺や港について満足と答えた割合が37.5%であり、不満と答えた割合(11.5%)を大きく上回っていますが、最終年度の目標達成に向けて市民の満足度をより一層上げていく必要があります。	見直し内容	H25年度までに「新・海辺のマスタープラン」の施策実施のスケジュールにあげられた「短期」(概ね3年未満の短い期間で成果を出す)の施策(海岸利用状況の調査や海ナビガイドブックの作成など)から、次の段階である「中期」(5年程度で一定の成果を出す)の施策について重点的に取り組みます。平成26年度は具体的な取り組みとして、企業との協働による環境保全等に取り組みます。
-----------	-------------------	--	--------------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民および、北九州市の港や海辺を訪れる来訪者	多くの人々が、海辺を舞台に憩い、学び、遊ぶことのできる魅力ある海辺を目指します。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合			単年度目標設定なし		
	市民意識調査で、市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合をモニタリングします。(調査は、毎年度行います) ※最終目標は、市民の4分の3以上が満足していることを目指します。 (最終目標と目標年度) 75%(H32年度)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	「新・海辺のマスタープラン」の施策実施のスケジュールにあげられた「中期」(5年程度で一定の成果を出す)の施策について重点的に取り組みます。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市内の沿岸に位置する企業の環境保全への取り組み調査			調査の実施		
	市内の沿岸に位置する企業が、藻場・干潟を使った環境修復事業(市民参加による洞海湾の環境修復検討事業)で蓄積したノウハウを活用することで、環境と共生し市民に親しまれる海辺づくりを実現することが可能かを探ります。				%	
					%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	整備課
課長名	木原
施策番号	
Ⅲ - 1 - (2) - ③	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()

事業概要						
事業名	港湾施設整備事業(緑地整備)					事業費
	水際線において、海辺の眺望や親水空間を備えた緑地を整備することにより、市民に安らぎや憩いの空間を提供することを目指します。					
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.10 人
	34,000 千円	千円	H25年度補正予算額 52,000千円	3,650 千円	係長	0.10 人
					職員	0.20 人

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 新門司北地区緑地C(津村島)の成果及び活動の状況については、事業が予定通り進んでいるため、順調としています。平成25年度完了を目標として、引き続き整備を進めます。	見直し内容 新門司北地区緑地C(津村島)は平成25年度に完成、供用を開始しました。また、新門司北地区東緑地及び響灘東地区南緑地においても、市民に安らぎや憩いの親水空間を提供する緑地整備を引き続き行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	市民が海辺と親しみ憩うための緑地整備		新門司北地区東緑地の完成		
	市民が海辺と親しみ憩えるよう整備する新たな3地区の緑地(新文字北地区緑地C(津村島)、新門司北地区東緑地、響灘東地区南緑地)について、地区単位での整備を指標とします。			%	
	(最終目標と目標年度) 3地区の緑地整備 平成28年度			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 市民が親しめる水際線の早期整備を達成するため、新門司北地区においては平成26年度、響灘東地区においては28年度の完成を目指して、緑地の整備を進めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	新門司東緑地 緑地整備延長		180 m		
	新門司北地区東緑地の緑地整備延長を指標として設定。			%	
	響灘南緑地 緑地整備延長		152 m		%

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	立地促進課
事業概要							課長名	光武
							施策番号	
事業名	企業誘致活動事業						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
事業概要	臨海部産業団地の分譲を促進するため、充実した港湾インフラや「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」など本市の強みを活かすことのできる企業に対し、積極的に誘致活動を行います。							
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額		課長 0.30 人
		9,997 千円	千円			28,700 千円		係長 1.10 人 職員 1.90 人

【Action】改善		
課題	H24年度の活動指標として挙げていた「企業訪問」活動は順調であるものの、目標の「企業立地件数」に達することができませんでした。今後は、投資マインドの改善が進む産業へターゲットを絞った誘致活動が必要です。	見直し内容 企業訪問などにより企業の取り巻く環境を調査し、投資マインドが改善する産業を適確に把握することで、立地可能性の高い産業へターゲットを絞り込み、誘致活動を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	本市臨海部産業用地	充実した港湾インフラや「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」など本市の強みを活かすことのできる、環境・エネルギー産業や自動車関連産業などの企業の集積を図ります。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	臨海部産業用地への企業立地件数		4 件		
	臨海部産業用地の分譲や港湾インフラの利用促進のため、企業誘致活動に努め、平成26年度以降、年間4件の企業立地を目標とします。 (最終目標と目標年度) 20件 H30年度(H26年度～)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 本市の持つ充実した港湾インフラを活用する国内外の物流拠点、環境・エネルギー産業や自動車関連産業などの製造拠点の集積を軸とし、投資マインドの改善が見込まれる企業をターゲットに誘致活動を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	企業訪問件数		400 件		
	企業訪問により企業を取り巻く経済環境を調査し、立地可能性の高い企業への立地提案や既存企業への事業拡張の提案を行い、積極的な誘致活動に努めます。			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	計画課・立地促進課
課長名	牛島・光武
施策番号	
IV - 1 - (3) - ①	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	(人件費備考)

事業概要							
事業名	響灘洋上風力発電拠点化推進事業						
事業概要	響灘地区に洋上風力発電の“発電拠点”と“産業拠点”の両拠点を形成します。 本市のエネルギー政策の推進とアジアに向けた戦略的物流・産業拠点の形成を図る「アジアグリーンポート」の実現のため、響灘沖の港湾区域内に洋上風力発電の導入を図るとともに、消費地への近接性をインセンティブに風力発電関連産業の集積を進めます。						
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考) 全体予算額: 27,000千円 【内訳】計画課予算額: 17,500千円 立地促進課予算額: 9,500千円	人件費	目安の金額	課長 0.30人 係長 0.90人 職員 1.80人
		27,000 千円	千円			25,950 千円	

【Action】改善		
課題	“発電拠点”の形成に向けては、船舶の航行安全や港湾施設などへの影響に留意し、地元関係者とも十分協議を行い、合意を得る必要があります。 また、洋上風車の“産業拠点”化を進めるには、戦略的事業パートナーの誘致やソフト、ハードに亘る港湾整備が不可欠です。	見直し内容
H24年度の評価結果を受けての課題		-

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	洋上風力発電	響灘沖の港湾区域内において、洋上風力発電の適地を設定し、発電事業者を公募・選定します。 また、これをインセンティブに洋上向け大型風車の製造から搬出まで可能な洋上風力発電拠点港としての環境を整備し、響灘沖での洋上風力発電の導入と関連産業の集積を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	風力発電関連施設の立地		洋上風力発電の適地設定		
	響灘地区に風力発電関連施設の立地を進めます ※適地選定等、事前の調査検討が前提となるため数値化不可 (最終目標と目標年度) 風力発電関連施設の立地(平成30年度)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか ・国が策定した風力発電導入マニュアルに従い、(仮称)北九州港再生エネルギー導入検討協議会を設立し、洋上風力発電の導入に向けた検討を進めていきます。 ・「響灘洋上風力発電基地化」調査を行い、市場調査や環境整備調査、関係団体や企業へのニーズ調査を行い、洋上風力拠点港の形成に向けた検討を進めていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	(仮称)北九州港再生可能エネルギー導入検討協議会の開催		洋上風力発電の適地設定		
	関係行政機関及び外部有識者等により構成する協議会を開催し、響灘における洋上風力発電の適地設定、公募要件・審査基準の策定及び事業者選定の際の審査にあたり支援を受けます。			%	
	「響灘洋上風力発電基地化」に向けての関係団体や企業へのヒアリング 洋上風力発電基地に必要な施設や機能の適正な配置計画について、ヒアリングを実施します。		10 件	%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	立地促進課
課長名	光武
施策番号	
IV - 1 - (3) - ①	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)	

事業概要						
事業名	企業誘致活動事業					
	臨海部産業団地の分譲を促進するため、充実した港湾インフラや「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」など本市の強みを活かすことのできる企業に対し、積極的に誘致活動を行います。					
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.30 人
	9,997 千円	千円			28,700 千円	係長 1.10 人 職員 1.90 人

【Action】改善		
課題	H24年度の活動指標として挙げていた「企業訪問」活動は順調であるものの、目標の「企業立地件数」に達することができませんでした。今後は、投資マインドの改善が進む産業へターゲットを絞った誘致活動が必要です。	見直し内容 企業訪問などにより企業の取り巻く環境を調査し、投資マインドが改善する産業を適確に把握することで、立地可能性の高い産業へターゲットを絞り込み、誘致活動を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	本市臨海部産業用地	充実した港湾インフラや「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」など本市の強みを活かすことのできる、環境・エネルギー産業や自動車関連産業などの企業の集積を図ります。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	臨海部産業用地への企業立地件数		4 件			
	臨海部産業用地の分譲や港湾インフラの利用促進のため、企業誘致活動に努め、平成26年度以降、年間4件の企業立地を目標とします。 (最終目標と目標年度) 20件 H30年度(H26年度～)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	本市の持つ充実した港湾インフラを活用する国内外の物流拠点、環境・エネルギー産業や自動車関連産業などの製造拠点の集積を軸とし、投資マインドの改善が見込まれる企業をターゲットに誘致活動を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	企業訪問件数		400 件			
	企業訪問により企業を取り巻く経済環境を調査し、立地可能性の高い企業への立地提案や既存企業への事業拡張の提案を行い、積極的な誘致活動に努めます。				%	
					%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	総務企画課
課長名	深村
施策番号	
IV - 4 - (3) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)	

事業概要						
事業名	クルーズ客船の誘致					
	海外で開催されるコンベンションへの出展や、配船決定のキーパーソンの招へい、代理店や船社への商品提案などによる直接営業を通し、国内外のクルーズ客船の寄港を促進します。 また、船社が寄港地を決定したり、発着のクルーズ商品を造成する際に重要視する、乗船客における港への高い評価と、港背後のクルーズ人口の増加のために、客船寄港時には、おもてなしイベント等を展開します。					
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.25 人
	3,603 千円	千円			15,375 千円	係長 0.50 人 職員 1.00 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	・乗船客における港への高い評価の獲得に努め、港背後のクルーズ人口の増加に働きかけます。
			・欧州中小型船社への港の認知度を定着させるとともに、船社テストに合わせた商品を提案します。
			・クルーズ船入出港時に、感動的な演出をすることによって、港を印象づけ、さらに市民の参加を促すことでクルーズ人口の掘り起こしを図ります。
			・欧州船社への営業を強化し、新規開拓を図るとともに、民間を含めた関係団体との連携を広げ、新たな観光資源の発掘を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	国内外のクルーズ客船	定期的に北九州港へ寄港する状態			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	クルーズ客船の寄港数				
	平成26年度は、2回のクルーズ客船の寄港を目指します。	回	2 回		
	(最終目標と目標年度) 平成32年度6回			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	・船社・代理店への直接営業 ・他港との連携 ・寄港時のおもてなし ・テーマクルーズの提案	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績			
活動指標	ターゲット船社・代理店との接触回数				
	・連携事業でのセミナー開催 ・商談会への積極的な参加 ・役員の招へい	回	18 回		
	客船寄港時のおもてなしイベント				
	・市民参加によるお出迎え、お見送り	回	2 回		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	総務企画課
課長名	森安
施策番号	
IV - 4 - (3) - ②	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()

事業概要						
事業名	北九州港市民PR事業					事業費
	広く市民に海・港に親んでもらい、港の賑わいを創出するため、帆船公開などを開催するほか、北九州港内で開催される花火大会を支援します。					
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.20 人
	14,410 千円	千円		12,800 千円	係長	0.60 人
					職員	0.60 人

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	H24年9月からのJR門司港駅工事に伴い、関門海峡花火大会の観客の安全を確保する必要があります。また、北九州港の知名度の向上を図ることも重要な課題です。	見直し内容	・関門海峡花火大会が、安全・安心な大会となるよう支援を行います。 ・北九州港の周知・PRについて、ポスター・チラシ等これまでのコンテンツに加え、フェイスブック等の経費を抑えたコンテンツを充実させ、広く情報発信を行います。
----	-------------------	--	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
市民など		「新・海辺のマスタープラン」における本市の海辺のコンセプト「海辺を舞台に憩い・学び・遊ぶ！魅力ある海辺をめざして」の実現に向けた目標の一つである「親しまれる度合いを高める」ために、訪れるきっかけをつくる「機会の提供」と、もっと海を知ってもらう「情報の提供」を創出する。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	北九州港内で開催されるイベントの来場者数				
	海や港で開催するイベントは、海辺を訪れる「機会の提供」に大きく資するものであることから、その来場者数を指標とし、過去の実績及び今後の開催見込みから目標数値を算定しました。 (最終目標と目標年度)	102 万人	106 万人	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	広く市民に海・港へ親んでもらうため、北九州港内において魅力あるイベントを実施します。また、北九州港内に関する様々な情報発信に努め、北九州港の知名度アップを図ります。				
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	北九州港内におけるイベント等の年間実施件数				
	北九州港内で行われる花火大会及び帆船の一般公開等のイベント開催並びに海の日記念事業等の実施団体への支援を通じて、北九州港の賑わい創出に努めます。	27 件	29 件	%	
	北九州港の周知・PR				
	ポスター・チラシ、インターネット等様々なコンテンツで北九州港について広く情報発信します。	-	-	%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要						担当局	港湾空港局	
						担当課	整備課	
						課長名	木原	
事業名	響灘及び新門司埋立地整備等事業						施策番号	
							V - 1 - (3) - ②	
事業概要	企業立地の円滑化を図るため、響灘東及び響灘西、並びに新門司臨海部土地造成事業計画に基づき、道路等のインフラ整備を行います。						事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
								()
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人	
		439,000 千円	千円			4,400 千円	係長 0.10 人 職員 0.30 人	
						(人件費備考)		

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	限られた予算の中で、企業立地に必要な道路等のインフラ整備を、優先順位をつけて整備していきます。	見直し内容
			今後も、道路等のインフラ整備を効率的に行うことにより、企業が進出できる環境を整備していきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	企業	埋立造成地において、道路等のインフラ整備を行なうことにより、企業が進出できる環境を整備し、企業立地の促進を目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	企業立地の促進		4件の企業誘致目標に合わせインフラ整備を行う	%	
	平成30年度までの企業誘致目標20件に合わせ、道路等のインフラ整備を行うことにより、企業立地の円滑化を目指します。				
	(最終目標と目標年度) 企業立地に伴うインフラ整備				
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	道路等のインフラ整備を行なうことにより、企業が進出できる環境を整備します。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	響灘東埋立地道路 整備延長		400 m	%		
	響灘東埋立地のインフラ整備の代表として、同地の道路整備延長を指標として設定。					
	響灘西埋立地雨水管 整備延長		144 m	%		
	響灘西埋立地のインフラ整備の代表として、同地の雨水管整備延長を指標として設定。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要						担当局	港湾空港局
						担当課	空港企画室
事業名 北九州空港航空貨物拠点化事業						課長名	井上
						施策番号	
事業概要 24時間運用や税関・検疫空港の指定など、北九州空港の特性を活かし、開港以来、貨物拠点化に向け、福岡県や苅田町などの自治体及び地元経済団体と協力して空港機能強化のための活動を行っています。また、空港機能強化の根拠となる大型貨物機の就航実績を示すため助成制度等を活用し、航空会社への路線誘致や貨物利用運送事業者への集貨促進を行っています。						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.40 人
		168,323 千円	千円			16,475 千円	係長 0.70 人 職員 0.65 人
						(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	航空貨物拠点化を進めるうえで、さらなる集貨促進が必要です。今後、この取り組みによって集貨が促進され、大型貨物機材の就航便数が多くなると、駐機スポットの増加等の機能拡充や税関等CIQの常駐化が必要になってきます。	見直し内容 現在就航している貨物便や今後就航が見込まれる貨物便について、新たな貨物を開拓するなど集貨を行っていきます。また、空港機能の拡充やCIQの常駐化に向けて、貨物拠点化を進めながら、国に要望していきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	北九州空港	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
			行政の補助制度無しに、航空物流に関するビジネスが民間企業間の経済活動となり、大型貨物機での輸送を必要とする貨物が集まり、この大型貨物機の就航もビジネスとして成立し、携わる企業等が活動可能な収益を上げられる便数が就航している状態。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	航空貨物取扱量				
	集貨活動の成果として航空貨物取扱量を指標としました。最終目標は、北九州市新成長戦略で定めている目標のうち短期目標(5年程度)の貨物取扱量です。 (最終目標と目標年度) 平成30年度 貨物取扱量30,000t		17,000 / 年	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	航空会社や貨物利用運送事業者を訪問し、北九州空港利用のメリットについてPRをします。また、助成金制度の活用を紹介することによって物流経路変更などのリスクを軽減させ実際の利用へ結び付けます。これらの活動により航空貨物取扱量を増加させます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	貨物利用運送事業者数				
	就航便を利用する貨物利用運送事業者に対して重量助成制度を活用して航空貨物の誘致を行っています。		30 社	%	
	貨物チャーター便数		15 便	%	
北九州空港への就航時に、近隣空港と比較して不足する施設や機能を補うために要する費用について助成を行い、貨物チャーター便の就航を促します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	物流振興課
課長名	岡島
施策番号	
V - 1 - (3) - ③	
■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 ■ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 ()	

事業概要					
事業名	物流拠点都市づくり推進事業				
	北九州市の物流施策の方向性を示す戦略(物流戦略)を検討するとともに、企業ニーズに応えられる総合的な物流施策を推進します。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		4,776 千円	千円		目安の金額
					課長 0.10 人 係長 0.10 人 職員 0.20 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	H25年3月に策定した「北九州市物流拠点化戦略基本方針」に基づき、物流の活性化を図ります。特に、現在整備中の東九州自動車道が開通すれば、大分・宮崎方面とのアクセスが向上し、本市の物流面での重要性和優位性が高まります。このことを踏まえた諸施策を推進するとともに、物流拠点としての魅力についてのPR強化を図る必要があります。	見直し内容 これまでも物流拠点都市づくりの取り組みについてのPRを行ってきましたが、今後は、東九州方面のアクセス向上により本市の優位性が高まることについて、市民や企業の理解をさらに深める必要があります。限られた予算を有効に活用するために、PR強化に重点的に予算配分するように見直しを行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地域産業及び市民生活	官民一体となった集貨と創貨の取組みにより、複合型物流拠点の形成を図り、地域産業の活性化及び市民生活の向上を目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	北九州港海上出入貨物取扱量		単年度目標設定なし		
	様々な物流振興施策を実施することで、港湾貨物取扱量の増加を図ります。この目標値は、「北九州市物流拠点化戦略基本方針」に定められています (最終目標と目標年度) 10,900万t (H27)			%	
			%		
(最終目標と目標年度)		%			

活動計画	どうやって目的を達成するか	東九州方面のアクセス向上を踏まえた物流拠点都市としての魅力について、市内・市外の企業に対して広くPRを行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	プロモーション活動参加者数(単年度)		1,000 人		
	シンポジウム等のプロモーション活動を通じて、本市の物流拠点都市としての優位性に対する理解を深めます。			%	
			%		
		%			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	整備課
							課長名	木原
事業名	港湾施設整備事業(岸壁、物揚場、道路、橋梁等整備)						施策番号	
							V - 1 - (3) - ③	
事業概要	岸壁や道路等の老朽化した港湾施設について、適切な改良を加え、機能の維持・強化を行うことにより、施設利用者の安全性確保及び利便性向上を図ります。						事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
								コスト
	348,500 千円	千円	H25年度補正予算額 155,000千円	人件費	5,150 千円	係長 0.10 人 職員 0.40 人		

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	市内の老朽化した港湾施設について、限られた予算の中で改良や補修を進めていくため、施設の老朽化の度合いや利用頻度に基づいて優先順位を定め、整備していきます。	見直し内容 今後も、港湾施設利用者の安全性確保及び利便性向上を図るため、施設の老朽化の度合いや利用頻度に基づいて優先順位を定め、改良や補修を行っていきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 港湾施設の利用者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 老朽化した港湾施設に適切な改良を加え、機能の維持・強化を行うことにより、施設利用者の安全性確保及び利便性向上を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	港湾施設利用者の安全性確保及び利便性向上				
	老朽化した港湾施設に適切な改良を加え、機能の維持・強化を行うことにより、施設利用者の安全性確保及び利便性向上を目指します。 (最終目標と目標年度)		単年度目標設定なし	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 老朽化した港湾施設それぞれに適した改良を行なうことにより、施設利用者の安全性確保及び利便性向上を図ります。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	大里防波堤 整備延長				
	港湾施設整備の代表として、大里地区の防波堤整備延長を指標として設定。		30 m	%	
	松ヶ島物揚場 改良延長				
港湾施設整備の代表として、松ヶ島地区等の物揚場改良延長を指標として設定。			35 m	%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	計画課・立地促進課
課長名	牛島・光武
施策番号	
V - 1 - (4) - ②	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	響灘洋上風力発電拠点化推進事業				
事業概要	響灘地区に洋上風力発電の“発電拠点”と“産業拠点”の両拠点を形成します。本市のエネルギー政策の推進とアジアに向けた戦略的物流・産業拠点の形成を図る「アジアグリーンポート」の実現のため、響灘沖の港湾区域内に洋上風力発電の導入を図るとともに、消費地への近接性をインセンティブに風力発電関連産業の集積を進めます。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考) 全体予算額: 27,000千円 【内訳】計画課予算額: 17,500千円 立地促進課予算額: 9,500千円	目安の金額	課長 0.30 人
	27,000 千円	千円	千円	25,950 千円	係長 0.90 人 職員 1.80 人

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 “発電拠点”の形成に向けては、船舶の航行安全や港湾施設などへの影響に留意し、地元関係者とも十分協議を行い、合意を得る必要があります。また、洋上風車の“産業拠点”化を進めるには、戦略的事業パートナーの誘致やソフト、ハードに亘る港湾整備が不可欠です。	見直し内容 -

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 洋上風力発電	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 響灘沖の港湾区域内において、洋上風力発電の適地を設定し、発電事業者を公募・選定します。また、これをインセンティブに洋上向け大型風車の製造から搬出まで可能な洋上風力発電拠点港としての環境を整備し、響灘沖での洋上風力発電の導入と関連産業の集積を図ります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	風力発電関連施設の立地		洋上風力発電の適地設定		
	響灘地区に風力発電関連施設の立地を進めます ※適地選定等、事前の調査検討が前提となるため数値化不可 (最終目標と目標年度) 風力発電関連施設の立地(平成30年度)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか ・国が策定した風力発電導入マニュアルに従い、(仮称)北九州港再生エネルギー導入検討協議会を設立し、洋上風力発電の導入に向けた検討を進めていきます。 ・「響灘洋上風力発電基地化」調査を行い、市場調査や環境整備調査、関係団体や企業へのニーズ調査を行い、洋上風力拠点港の形成に向けた検討を進めていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	(仮称)北九州港再生可能エネルギー導入検討協議会の開催		洋上風力発電の適地設定		
	関係行政機関及び外部有識者等により構成する協議会を開催し、響灘における洋上風力発電の適地設定、公募要件・審査基準の策定及び事業者選定の際の審査にあたり支援を受けます。			%	
	「響灘洋上風力発電基地化」に向けての関係団体や企業へのヒアリング		10 件		%
洋上風力発電基地に必要な施設や機能の適正な配置計画について、ヒアリングを実施します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要					担当局	港湾空港局
					担当課	空港企画室
事業名	北九州空港航空貨物拠点化事業				課長名	井上
					施策番号	
事業概要	24時間運用や税関・検疫空港の指定など、北九州空港の特性を活かし、開港以来、貨物拠点化に向け、福岡県や苅田町などの自治体及び地元経済団体と協力して空港機能強化のための活動を行っています。また、空港機能強化の根拠となる大型貨物機の就航実績を示すため助成制度等を活用し、航空会社への路線誘致や貨物利用運送事業者への集貨促進を行っています。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
						コスト 事業費
		168,323 千円	千円		16,475 千円	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	航空貨物拠点化を進めるうえで、さらなる集貨促進が必要です。今後、この取り組みによって集貨が促進され、大型貨物機材の就航便数が増えると、駐機スポットの増加等の機能拡充や税関等CIQの常駐化が必要になってきます。	見直し内容 現在就航している貨物便や今後就航が見込まれる貨物便について、新たな貨物を開拓するなど集貨を行っていきます。また、空港機能の拡充やCIQの常駐化に向けて、貨物拠点化を進めながら、国に要望していきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	北九州空港	行政の補助制度無しに、航空物流に関するビジネスが民間企業間の経済活動となり、大型貨物機での輸送を必要とする貨物が集まり、この大型貨物機の就航もビジネスとして成立し、携わる企業等が活動可能な収益を上げられる便数が就航している状態。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)		25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	航空貨物取扱量					
	集貨活動の成果として航空貨物取扱量を指標としました。最終目標は、北九州市新成長戦略で定めている目標のうち短期目標(5年程度)の貨物取扱量です。 (最終目標と目標年度)平成30年度 貨物取扱量30,000t			17,000 トン / 年	%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	航空会社や貨物利用運送事業者を訪問し、北九州空港利用のメリットについてPRをします。また、助成金制度の活用を紹介することによって物流経路変更などのリスクを軽減させ実際の利用へ結び付けます。これらの活動により航空貨物取扱量を増加させます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)		25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	貨物利用運送事業者数					
	就航便を利用する貨物利用運送事業者に対して重量助成制度を活用して航空貨物の誘致を行っています。			30 社	%	
	貨物チャーター便数			15 便	%	
北九州空港への就航時に、近隣空港と比較して不足する施設や機能を補うために要する費用について助成を行い、貨物チャーター便の就航を促します。						

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	空港企画室
事業概要							課長名	青木
							施策番号	
事業名	北九州空港新規路線就航促進事業						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
事業概要	北九州市民の利便性向上のため、国内・国際定期便の新規就航及び既存路線の定着を図ることを目標に、路線誘致活動を行います。							
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.20 人		
	82,538 千円	千円			10,050 千円	係長 0.40 人 職員 0.50 人		

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	北九州空港は現在、東京・釜山への定期便を有しています。平成24年7月よりスターフライヤーによる北九州-釜山便が就航し、国際定期便の就航社数の1社を達成できましたが、平成26年3月末に運休となります。そのため、国内・国際ともに新規路線の誘致が喫緊の課題です。	見直し内容 チャーター便の実績を根拠にチャーター便を運航した航空会社等に対して、定期便就航に向けた協議を行っていきます。また、平成24年度にはなかった香港チャーター便を始め、新しい航空会社の誘致も積極的に行っていきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州空港	北九州空港の利用促進のため、路線の誘致を実施し、路線数が増加して、市民の利便性が向上する状態			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	国際定期路線を維持・拡大				
	国際定期路線の維持・拡大を図ります。 (最終目標と目標年度)		1 路線	%	
	国内定期路線を維持・拡大				
国内定期路線の維持・拡大を図ります。 (最終目標と目標年度)		1 路線	%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	既存路線の利用率安定のため、旅行社などと協力して利用促進活動を行います。また、新規路線拡充のため、航空会社へ誘致活動を行います。特に、定期便につながるチャーター便を積極的に誘致します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	国際チャーター便の実施				
	新規国際便の就航を目指し、市場調査や就航時の問題点などの把握のため、チャーター便を実施します。		80 便	%	
	国内チャーター便の実施				
新規国内便の就航を目指し、市場調査や就航時の問題点などの把握のため、チャーター便を実施します。		30 便	%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	物流振興課
課長名	相良
施策番号	
V - 2 - (1) - ②	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()

事業概要						
事業名	北九州港集貨航路誘致事業					事業費備考
	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行います。					
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	人員費	目安の金額	課長 1.00 人 係長 1.80 人 職員 4.10 人
		69,280 千円	千円		60,250 千円	(人員費備考)

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成24年の北九州港海上出入貨物取扱量は9,884万トンとなりました。平成25年3月に策定した「北九州市物流拠点化基本方針」の目標値である平成27年度に10,900万トンの取扱量を達成するために、更なる集貨・航路誘致に取組む必要があります。	見直し内容	PR経費や出張費等活動経費を見直し、より効果的で効率的な事業実施に取り組みます。活動内容については、より具体的な提案型の企業訪問やプロモーション活動を行うことができるよう取り組みます。
----	-------------------	--	-------	--

【Plan】計画

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	【Do】実施 → 【Check】評価	
	北九州港	物流改善等による北九州港への貨物集約(集貨)、背後地への企業進出による新規貨物の創出(創貨)、北九州港へ寄港する船会社・航路の増加(航路誘致)などを目指します。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	北九州港海上出入貨物取扱量 様々な物流振興施策を実施することで、港湾貨物取扱量の増加を図ります。この目標値は、「北九州市物流拠点化戦略基本方針」に定められています (最終目標と目標年度) 10,900万t (H27)		単年度目標設定なし	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

【Check】評価(分析)

活動計画	どうやって目的を達成するか	荷主・船社のニーズの把握や、そのニーズに即応する体制を強化するとともに、北九州港利用促進のため、創貨の観点も踏まえ引き続き集貨や航路誘致を着実に進めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	船社、荷主等への企業訪問件数 (単年度) 行政としてより積極的な企業訪問を実施し、荷主や船社の動向を把握すると同時に、関係する企業との信頼関係を構築していきます。その結果、北九州港における貨物量の増加や航路拡充の実現を目指します。		300 件	%	
	北九州港プロモーション活動参加者数 (単年度) 視察会や港湾セミナー等のプロモーション活動を展開し、北九州港に興味を持つあるいは利用の可能性のある企業に北九州港の認知度を高め、貨物量の増加や航路誘致実現へと結び付けていきます。		800 人	%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	整備課
課長名	木原
施策番号	
V - 2 - (1) - ②	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()

事業概要						
事業名	太刀浦埠頭用地整備事業					事業費備考
事業概要	太刀浦コンテナターミナル内の舗装の損傷が著しい箇所について補修を行うとともに、未舗装の荷さばき地、野積場について舗装を行うことで、荷役作業の安全性確保と効率化を図ります。					(人件費備考)
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人
		226,400 千円	千円		3,650 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成23年度から3ヶ年をかけて、太刀浦埠頭の特に損傷の著しいヤード舗装の補修を行なう予定ですが、それ以外のヤードにおいても、舗装の劣化が進行しており、全体的なヤード舗装の補修が必要となっています。また、未舗装の箇所の舗装も必要です。	見直し内容	平成26年度から太刀浦埠頭全体のヤード舗装の補修を行うとともに、未舗装の荷さばき地、野積場の舗装を行っていきます。
----	-------------------	--	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	コンテナヤード等利用者	コンテナヤード等の舗装補修や未舗装箇所の舗装を行うことにより、荷役作業の安全性確保と効率化を目指します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	荷役作業の安全性確保と効率化		単年度目標設定なし			
	コンテナヤード等の舗装補修や未舗装箇所の舗装を行うことにより、荷役作業の安全性確保と効率化を目指します。 (最終目標と目標年度) コンテナヤード等の整備 平成31年度			%		
	(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	太刀浦第一及び第二コンテナターミナル内のヤード舗装について、平成26年度から6ヶ年をかけて舗装補修を実施します。また、太刀浦第一及び第二コンテナターミナル端部の未舗装となっている荷捌地や野積み場について、平成26年度に舗装整備を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	コンテナヤード舗装補修面積		16,000 m2		
	太刀浦第一、第二コンテナターミナル内のヤード舗装について、その舗装補修面積を指標として設定。			%	
	荷捌地及び野積み場舗装面積		5,000 m2		
	太刀浦第一、第二コンテナターミナル端部の未舗装となっている荷捌地や野積み場について、その舗装面積を指標として設定。			%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	物流振興課
事業名 北九州港集貨航路誘致事業							課長名	相良
							施策番号	
事業概要 国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行います。							事業手法	
							<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 1.00 人	(人件費備考)	
		69,280 千円	千円			係長 1.80 人		
					職員 4.10 人			

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成24年の北九州港海上出入貨物取扱量は9,884万トンとなりました。平成25年3月に策定した「北九州市物流拠点化基本方針」の目標値である平成27年度に10,900万トンの取扱量を達成するために、更なる集貨・航路誘致に取組む必要があります。	見直し内容	PR経費や出張費等活動経費を見直し、より効果的で効率的な事業実施に取り組めます。活動内容については、より具体的な提案型の企業訪問やプロモーション活動を行うことができるよう取り組めます。
----	-------------------	--	-------	--

【Plan】計画 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州港	物流改善等による北九州港への貨物集約(集貨)、背後地への企業進出による新規貨物の創出(創貨)、北九州港へ寄港する船会社・航路の増加(航路誘致)などを目指します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	北九州港海上出入貨物取扱量			単年度目標設定なし		
	様々な物流振興施策を実施することで、港湾貨物取扱量の増加を図ります。この目標値は、「北九州市物流拠点化戦略基本方針」に定められています (最終目標と目標年度) 10,900万t (H27)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	荷主・船社のニーズの把握や、そのニーズに即応する体制を強化するとともに、北九州港利用促進のため、創貨の観点も踏まえ引き続き集貨や航路誘致を着実に進めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	船社、荷主等への企業訪問件数 (単年度)			300 件		
	行政としてより積極的な企業訪問を実施し、荷主や船社の動向を把握すると同時に、関係する企業との信頼関係を構築していきます。その結果、北九州港における貨物量の増加や航路拡充の実現を目指します。				%	
	北九州港プロモーション活動参加者数 (単年度)			800 人		
視察会や港湾セミナー等のプロモーション活動を展開し、北九州港に興味を持つあるいは利用の可能性のある企業に北九州港の認知度を高め、貨物量の増加や航路誘致実現へと結び付けていきます。			%			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	空港企画室
課長名	青木
施策番号	
V - 3 - (2) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	(人件費備考)
事業費	26年度当初予算額 26年度執行額
82,538 千円	千円
目安の金額	課長 0.20 人 係長 0.40 人 職員 0.50 人
10,050 千円	(人件費備考)

事業概要	
事業名	北九州空港新規路線就航促進事業
事業概要	北九州市民の利便性向上のため、国内・国際定期便の新規就航及び既存路線の定着を図ることを目標に、路線誘致活動を行います。
コスト	(事業費備考)

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	北九州空港は現在、東京・釜山への定期便を有しています。平成24年7月よりスターフライヤーによる北九州-釜山便が就航し、国際定期便の就航社数の1社を達成できましたが、平成26年3月末に運休となります。そのため、国内・国際ともに新規路線の誘致が喫緊の課題です。	見直し内容	チャーター便の実績を根拠にチャーター便を運航した航空会社等に対して、定期便就航に向けた協議を行っていきます。また、平成24年度にはなかった香港チャーター便を始め、新しい航空会社の誘致も積極的に行っていきます。
----	-------------------	--	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
北九州空港	北九州空港	北九州空港の利用促進のため、路線の誘致を実施し、路線数が増加して、市民の利便性が向上する状態			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	国際定期路線を維持・拡大				
	国際定期路線の維持・拡大を図ります。 (最終目標と目標年度)		1 路線	%	
	国内定期路線を維持・拡大				
	国内定期路線の維持・拡大を図ります。 (最終目標と目標年度)		1 路線	%	

活動計画	活動の状況			
どうやって目的を達成するか	既存路線の利用率安定のため、旅行社などと協力して利用促進活動を行います。また、新規路線拡充のため、航空会社へ誘致活動を行います。特に、定期便につながるチャーター便を積極的に誘致します。			
活動指標	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
国際チャーター便の実施				
新規国際便の就航を目指し、市場調査や就航時の問題点などの把握のため、チャーター便を実施します。		80 便	%	
国内チャーター便の実施				
新規国内便の就航を目指し、市場調査や就航時の問題点などの把握のため、チャーター便を実施します。		30 便	%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点
-----------	---

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	物流振興課
事業名 北九州港集貨航路誘致事業							課長名	相良
							施策番号	
事業概要 国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行います。							事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
								(人件費備考)
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.00 人	
		69,280 千円	千円			60,250 千円	係長 1.80 人 職員 4.10 人	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成24年の北九州港海上出入貨物取扱量は9,884万トンとなりました。平成25年3月に策定した「北九州市物流拠点化基本方針」の目標値である平成27年度に10,900万トンの取扱量を達成するために、更なる集貨・航路誘致に取り組む必要があります。	見直し内容 PR経費や出張費等活動経費を見直し、より効果的で効率的な事業実施に取り組めます。活動内容については、より具体的な提案型の企業訪問やプロモーション活動を行うことができるよう取り組めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	北九州港		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	物流改善等による北九州港への貨物集約(集貨)、背後地への企業進出による新規貨物の創出(創貨)、北九州港へ寄港する船会社・航路の増加(航路誘致)などを目指します。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	北九州港海上出入貨物取扱量		単年度目標設定なし			
	様々な物流振興施策を実施することで、港湾貨物取扱量の増加を図ります。この目標値は、「北九州市物流拠点化戦略基本方針」に定められています (最終目標と目標年度) 10,900wt (H27)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	荷主・船社のニーズの把握や、そのニーズに即応する体制を強化するとともに、北九州港利用促進のため、創貨の観点も踏まえ引き続き集貨や航路誘致を着実に進めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	船社、荷主等への企業訪問件数 (単年度)		300 件			
	行政としてより積極的な企業訪問を実施し、荷主や船社の動向を把握すると同時に、関係する企業との信頼関係を構築していきます。その結果、北九州港における貨物量の増加や航路拡充の実現を目指します。				%	
	北九州港プロモーション活動参加者数 (単年度)		800 人		%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	事業調整課
事業概要							課長名	今吉
							施策番号	
事業名	響灘東地区処分場整備事業						事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
事業概要	北九州港内の航路・泊地の整備及び維持から発生する浚渫土砂、市民生活や市内中小企業の産業活動から発生する廃棄物等を最終的に処分する海面処分場(響灘東地区処分場)を整備します。							(人件費備考) 担当課の他、計画課及び整備課の係長、職員の人件費を含んでいます。
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.00 人 係長 3.00 人 職員 5.00 人	
		110,700 千円	千円			79,000 千円		

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	既存の廃棄物処分場及び土砂処分場の容量が残り少なくなっており、新たな処分場の確保が喫緊の課題となっています。	見直し内容 新規の廃棄物処分場及び土砂処分場を整備することにより、快適な市民生活と企業の産業活動を支援します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民生活、企業の産業活動	快適な市民生活、企業の活発な産業活動を支援する			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	長期的・安定的な処分場の確保		単年度目標設定なし		
	既存処分場が平成33年度に満杯となる見込みであるため、新規処分場の整備を行い、平成34年度から受入可能な状態を目指します。 (最終目標と目標年度) 受入開始 平成34年度			%	
	(最終目標と目標年度)		%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	響灘東地区処分場(廃棄物処分場、土砂処分場)を整備するために必要不可欠な環境アセスメント、埋立免許願書作成、護岸設計等の各種手続きを実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	埋立免許願書の作成		願書作成		
	処分場の整備(海面埋立て)に必要な埋立免許を取得する為の願書を作成します。			%	
	護岸構造の決定		構造決定		
処分場の護岸設計を行い、護岸の構造を決定します。		%			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要						担当局	港湾空港局
						担当課	総務企画課
事業概要						課長名	深村
						施策番号	
事業名	新・海辺のマスタープラン推進事業					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
事業概要	H23年5月に策定した「新・海辺のマスタープラン」における2つの目標(「目標1:利用できる海辺を増やす」「目標2:親しまれる度合いを高める」)を実現するための様々な取り組みについて、その検証及びプランの進捗管理等を行います。						
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.13 人	
	1,751 千円	千円			7,745 千円	係長 0.25 人 職員 0.50 人	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成24年度調査では、海辺や港について満足と答えた割合が37.5%であり、不満と答えた割合(11.5%)を大きく上回っていますが、最終年度の目標達成に向けて市民の満足度をより一層上げていく必要があります。	見直し内容 H25年度までに「新・海辺のマスタープラン」の施策実施のスケジュールにあげられた「短期」(概ね3年未満の短い期間で成果を出す)の施策(海岸利用状況の調査や海ナビガイドブックの作成など)から、次の段階である「中期」(5年程度で一定の成果を出す)の施策について重点的に取り組みます。平成26年度は具体的な取り組みとして、企業との協働による環境保全等に取り組みます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民および、北九州市の港や海辺を訪れる来訪者	多くの人々が、海辺を舞台に憩い、学び、遊ぶことのできる魅力ある海辺を目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合		単年度目標設定なし		
	市民意識調査で、市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合をモニタリングします。(調査は、毎年度行います) ※最終目標は、市民の4分の3以上が満足していることを目指します。 (最終目標と目標年度) 75%(H32年度)				%
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	「新・海辺のマスタープラン」の施策実施のスケジュールにあげられた「中期」(5年程度で一定の成果を出す)の施策について重点的に取り組みます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市内の沿岸に位置する企業の環境保全への取り組み調査		調査の実施		
	市内の沿岸に位置する企業が、藻場・干潟を使った環境修復事業(市民参加による洞海湾の環境修復検討事業)で蓄積したノウハウを活用することで、環境と共生し市民に親しまれる海辺づくりを実現することが可能かを探ります。				%
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要					担当局	港湾空港局
					担当課	総務企画課
事業名 新・海辺のマスタープラン推進事業					課長名	深村
					施策番号	
事業概要 H23年5月に策定した「新・海辺のマスタープラン」における2つの目標(「目標1:利用できる海辺を増やす」「目標2:親しまれる度合いを高める」)を実現するための様々な取り組みについて、その検証及びプランの進捗管理等を行います。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.13 人
		1,751 千円	千円		7,745 千円	係長 0.25 人 職員 0.50 人
					(人件費備考)	

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成24年度調査では、海辺や港について満足と答えた割合が37.5%であり、不満と答えた割合(11.5%)を大きく上回っていますが、最終年度の目標達成に向けて市民の満足度をより一層上げていく必要があります。	見直し内容	H25年度までに「新・海辺のマスタープラン」の施策実施のスケジュールにあげられた「短期」(概ね3年未満の短い期間で成果を出す)の施策(海岸利用状況の調査や海ナビガイドブックの作成など)から、次の段階である「中期」(5年程度で一定の成果を出す)の施策について重点的に取り組みます。平成26年度は具体的な取り組みとして、企業との協働による環境保全等に取り組みます。
----	-------------------	--	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民および、北九州市の港や海辺を訪れる来訪者	多くの人が、海辺を舞台に憩い、学び、遊ぶことのできる魅力ある海辺を目指します。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)		25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合			単年度目標 設定なし		
	市民意識調査で、市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合をモニタリングします。(調査は、毎年度行います) ※最終目標は、市民の4分の3以上が満足していることを目指します。 (最終目標と目標年度) 75%(H32年度)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	「新・海辺のマスタープラン」の施策実施のスケジュールにあげられた「中期」(5年程度で一定の成果を出す)の施策について重点的に取り組みます。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市内の沿岸に位置する企業の環境保全への取り組み調査	25年度実績	26年度目標		
活動指標	市内の沿岸に位置する企業が、藻場・干潟を使った環境修復事業(市民参加による洞海湾の環境修復検討事業)で蓄積したノウハウを活用することで、環境と共生し市民に親しまれる海辺づくりを実現することが可能かを探ります。		調査の実施		%
					%

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	港湾空港局
							担当課	物流振興課
事業名 北九州港集貨航路誘致事業							課長名	相良
							施策番号	
事業概要 国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行います。							事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
								(人件費備考)
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.00 人	
		69,280 千円	千円			60,250 千円	係長 1.80 人 職員 4.10 人	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成24年の北九州港海上出入貨物取扱量は9,884万トンとなりました。平成25年3月に策定した「北九州市物流拠点化基本方針」の目標値である平成27年度に10,900万トンの取扱量を達成するために、更なる集貨・航路誘致に取り組む必要があります。	見直し内容 PR経費や出張費等活動経費を見直し、より効果的で効率的な事業実施に取り組みます。活動内容については、より具体的な提案型の企業訪問やプロモーション活動を行うことができるよう取り組みます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	北九州港		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	物流改善等による北九州港への貨物集約(集貨)、背後地への企業進出による新規貨物の創出(創貨)、北九州港へ寄港する船会社・航路の増加(航路誘致)などを目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	北九州港海上出入貨物取扱量				
	様々な物流振興施策を実施することで、港湾貨物取扱量の増加を図ります。この目標値は、「北九州市物流拠点化戦略基本方針」に定められています (最終目標と目標年度) 10,900wt (H27)		単年度目標設定なし	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	荷主・船社のニーズの把握や、そのニーズに即応する体制を強化するとともに、北九州港利用促進のため、創貨の観点も踏まえ引き続き集貨や航路誘致を着実に進めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	船社、荷主等への企業訪問件数 (単年度)				
	行政としてより積極的な企業訪問を実施し、荷主や船社の動向を把握すると同時に、関係する企業との信頼関係を構築していきます。その結果、北九州港における貨物量の増加や航路拡充の実現を目指します。		300 件	%	
	北九州港プロモーション活動参加者数 (単年度)				
	視察会や港湾セミナー等のプロモーション活動を展開し、北九州港に興味を持つあるいは利用の可能性がある企業に北九州港の認知度を高め、貨物量の増加や航路誘致実現へと結び付けていきます。		800 人	%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>